

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0972400279		
法人名	有限会社かたくり		
事業所名	グループホームほっとステイ万葉の里		
所在地	栃木県佐野市栃本町3128-5 (電話) 0283-62-8900		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年9月2日	評価確定日	平成20年9月17日

【情報提供票より】 (平成20年8月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人(うち兼務1人), 非常勤1人, 常勤換算4.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代、おむつ代、医療費一実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	470 円	昼食	470 円
	夕食	470 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年8月22日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1		名	要介護2		2 名	
要介護3		5 名	要介護4		2 名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	85.7 歳	最低	81 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坪水医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、万葉集にゆかりのある土地柄、家にいるようにホッとするホームを作りたいとの思いから「ほっとステイ万葉の里」と名づけられた。入居者ができることは時間がかかっても「待つ」ことを大切にしており、洗濯物干しや食器拭きなど、入居者に働きかけながら生活の支援をしている。理念の言葉は、ホームで看取った入居者の言葉から理念としたものであり、宝として大切にしている。自治会に加入しており、冠婚葬祭の付き合いなどもしている。将来的には、ホームを地域の方が気軽に寄ってくれるサロンのような場所にしていきたいと考えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価実施後、職員にはミーティングで報告した。夏祭りをホームで開催するなど徐々に改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員に聞きながら管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、家族、自治会長、市役所職員に参加してもらっている。駐在所のおまわりさんにも出席してもらったこともある。お茶や昼の時間に開催して入居者との交流も図っている。管理者以外の職員も交代で参加している。自治会にチラシを配ることを検討したりしているが、今のところ、ホームからの報告が多い。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用料等が窓口支払になっており、家族は必ず月1回はホームに訪れており、家族の訪問の際や電話などで報告をしている。バーベキューや敬老会などに家族を誘っている。預り金は出納帳で管理し、毎月コピーして家族に報告している。アルバムを作成し、またホームだよりを作成している。重要事項説明書にホーム及び市の苦情・相談窓口を明記し、投書箱を置いている。苦情や要望があったときは、朝のミーティングなどで話し合い、また申し送りノートで職員間の共有を図り、改善に努めている。ホーム行事に家族の参加を呼びかけ、家族との接点づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、掃除や運動会に参加したり、冠婚葬祭の付き合いをしたりしている。花や野菜をもらったり、訪問日には駐車スペースを貸してもらおうなどの近所づきあいもある。昨年度までは市の祭りに行っていたが、今年度はホームで祭りを開催し、来年度は家族を誘うことを検討している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心みな1つになりて感謝と笑顔」の心で、やさしくゆったり寄り添って、普通の生活が送れるよう関わることをホームの理念としている。これは、ホームで看取った入居者の言葉から理念としたものであり、宝として大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者が書いてくれた手書きの理念を事務所内やホールなどに飾っている。申し送りなどで情報を共有し、理念にそった支援に努めている。以前に職員間の連携を深めるために、会議の場で職員間で理念について再確認したことがある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、掃除や運動会に参加したり、冠婚葬祭の付き合いをしたりしている。花や野菜をもらったり、訪問日には駐車スペースを貸してもらいなどの近所づきあいもある。昨年度までは市の祭りに行っていたが、今年度はホームで祭りを開催し、来年度は家族を誘うことを検討している。	○	管理者は、ホームを近所の方が気軽に寄ってくれる地域の中でのサロンのような場所にしたいと考えている。入居者が暮らしやすい町づくりという意味でも、今後も地域の方々とは様々なかわりを持ちながら理想のホームづくりをしていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価実施後、職員にはミーティングで報告した。夏祭りをホームで開催するなど徐々に改善に取り組んでいる。今回の自己評価は、職員に聞きながら管理者がまとめた。	○	自己評価・外部評価の結果を運営推進会議でも報告して、質の向上のための話し合いのきっかけとしていくことに期待したい。また、自己評価への職員の参加度合いを高め、職員の意識あわせを活かしていくことなどにも期待したい。

グループホームほっとステイ万葉の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、自治会長、市役所職員に参加してもらっている。駐在所のおまわりさんにも出席してもらったこともある。お茶や昼の時間に開催して入居者との交流も図っている。管理者以外の職員も交代で参加している。自治会にチラシを配ることを検討したりしているが、今のところ、ホームからの報告が多い。	○	会議の持ち方に更に工夫を加えたりしながら、双方向的な会議としていくことに期待したい。駐在所のおまわりさんに参加をお願いするなどの工夫もしているので、例えば地域包括支援センター職員などに参加してもらうことなどを検討してみることに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の職員に参加してもらっているほか、必要によっては介護保険担当部署以外にも出かけて相談などを行っている。主に管理者が市との窓口になっている。	○	管理者は、地域密着型サービスとして、今後、市との連携に取り組んでいきたいと考えている。ホームの現状を積極的に伝えながら、市との関係を深めていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料等が窓口支払になっており、家族は必ず月1回はホームに訪れており、家族の訪問の際や電話などで報告をしている。バーベキューや敬老会などに家族を誘っている。預り金は出納帳で管理し、毎月コピーして家族に報告している。アルバムを作成し、またホームだよりを作成している。	○	来年からホームで開催する夏祭りに家族を誘うことも考えている。今後も家族との接点づくりを大切にしながら、報告や話し合いの機会をつくっていくことに期待したい。また、職員の異動の報告なども含めて、ホームだよりを有効に活かしていくことに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び市の苦情・相談窓口を明記し、投書箱を置いている。苦情や要望があったときは、朝のミーティングなどで話し合い、また申し送りノートで職員間の共有を図り、改善に努めている。ホーム行事に家族の参加を呼びかけ、家族との接点づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	デイサービスセンターを併設しているが、今年度にグループホームに1名異動があったのみで、異動はほとんどない。この春に離職が3名あったが、管理者も夜勤に入るなどして周りの職員でカバーした。職員の交代があった時には、入居者の反応を見ながら、和やかな雰囲気づくりに努め、入居者へのダメージを防ぐよう努めている。管理者（兼運営者・計画作成担当者）は、自ら夜勤に入ったり、職員の勤務希望などを良く聞いたりして職員の働きやすさに配慮している。		

グループホームほっとステイ万葉の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として、以前は口腔ケアやメタボリックシンドロームなどの研修を実施していたが、このところ実施していない。外部研修は案内があったときに職員の希望を聞いて参加させるようにしている。	○	管理者は職員を研修に積極的に参加させたいと考えている。研修実施機関の年間計画などを参考に計画的に研修に参加できるような検討をしていくことに期待したい。また、以前のように勉強会の時間が持てるように運営上の工夫を検討していくことなどにも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。また、市内のグループホームと交流を持っており、電話などで相談事をするほか、入居者・職員と一緒に花見をしたりもしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人にホームに来てもらい、お茶を飲んで過ごしてもらったりしている。1ヶ月程度、1泊や2泊の滞在をしてもらいながら、本入居につなげた例もある。入居時には家族と一緒に居室の環境づくりをしたり、必要に応じて電話をしたりしながら本人がホームに徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人がすることによって多少時間がかかっても職員が「待つ」ことを大切にしている。食器片づけやモップがけなど、本人ができることはなるべくしてもらったり、職員と一緒にいたりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「待つ」ことを大切にしており、選んでもらう言葉かけなどをしながら本人の意見や希望を聞くように努めている。普段の生活の中での言動から本人の希望を把握するよう努め、個人記録等に記録しながら支援を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望を踏まえ、入居の際には従前関わっていたケアマネジャーから情報を得たり、医師からの指示を加えたりして介護計画を作成している。特に看取りを行ったときは、家族・医師と話し合いをもって支援した。職員の気づきなどは朝のミーティングで話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には6ヶ月に1度見直すこととしており、入居者に変化があったときなどは、職員間で話し合い、家族に相談したりして随時見直しをしている。	○	ケアの見直しを行ったときの介護計画書の書面上への記載について明確にしていきたいと考えている。ケアや本人の生活の継続性を支えやすくするという意味でも、アセスメントも含めて把握したこと・検討したことなどを書面に残していくことを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護（ショートステイ）の指定を受けている。馴染みながらの入居につなげるよう、1泊や2泊の滞在を取り入れたりしている。また、通院や買い物など柔軟な支援に努めている。		

グループホームほっとステイ万葉の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけ医、または協力医療機関の医師による受診を支援している。受診ノートのほか、医師の指示があった方については、毎朝・夕体重測定して健康ノートに記録するなど、入居者が適切な医療を受けられるよう細やかな配慮をしている。協力医療機関の医師は24時間連絡が取れるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や協力医と連携し、職員間で話し合いながら、ホームで看取りをしたことがある。これからも本人・家族の希望があればホームでの最期を支えていきたいと考えている。年月の経過とともに入居者のADLが低下してはいるが、入居者のできることはしてもらいながら、なるべく自立した生活を支えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室への出入り、タンスの開け閉めなど、本人に確認した上で支援している。排泄の失敗があったときなども本人の気持ちに配慮して着替えなどを支援している。個人記録等の書類はロッカールーム（兼倉庫）で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、起床や食事など一人ひとりのペースに沿った支援に努めている。訪問日の昼食も入居者それぞれのペースで摂っていた。農業をしていた方が畑の管理をしたりもしている。		

グループホームほっとステイ万葉の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生鮮食品が毎日届くようになっていたので、刺身などを出すことも多い。フキなど季節のものを取り入れたりもしている。入居者のできることに配慮しながら、ジャガイモやリンゴの皮むき、大根おろし作り、食器拭き等を入居者が行っている。職員も必要に応じて声をかけたりしながら、一緒に同じ物を食していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴が多いが、汗をかいたり、本人の希望があった時には柔軟に支援している。主に13:30~16:00ぐらいが入浴の時間帯になっている。入浴中に音楽を流したり、ゆず湯にしたりと入浴を楽しめる雰囲気づくりにも配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室に洗濯物が干せるように工夫されており、自分のものは自分で管理する配慮がされている。食後の後片付けなども、さり気ない場面づくりがされていた。モップがけ、雑巾縫い、畑仕事、読書、貼り絵、パズル、風船バレーなど役割・楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出が難しくなっている状況もうかがえるが、週に2~3回は散歩や外出の機会をつくっている。花見など行事的な外出や外食に出かける機会もつくっている。玄関先のベンチで夕涼みをしたりすることもある。	○	外気にふれる機会づくりを大切にしながら、「一人ひとりの希望にそった外出」の支援も追求して行くことを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより、日中は玄関に鍵を掛けない。玄関部分がやや高くなっており、安全に配慮してスロープ部分までの手すりの途中に門を取り付けたが、門扉にも鍵をかけていない。		

グループホームほっとステイ万葉の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、定期的な避難訓練を実施している。また、消防署に依頼して、毎年ホームで救命救急講習を受講している。緊急時のマニュアルを作っている。	○	今後も、夜間など様々な事態を想定した定期的な訓練を継続していくことに期待したい。また、毎年、救命救急講習を実施していることを活かして、例えば地域の方にも講習や訓練に誘ってみるなど、有事の際に協力してもらえよう具体的な関係づくりに取り組んでいくことにも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が一週間交替で献立を立てている。栄養士の資格を持った職員がいる。食事摂取量を記録し、必要に応じて栄養価の高いゼリー状の飲み物を提供している。水分摂取量は特に記録していないが、量が少ないときには体への吸収の良い飲み物や好きな飲み物を用意している。毎月1回は体重測定を実施しているが、医師からの指示のある方については、毎朝・夕に測定し、血圧等とともに記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や壁面を利用した飾りなどで季節感が出るように配慮している。冬には畳スペースにコタツを出している。ソファを2カ所に配置して、好きな場所で過ごせるようにしている。窓の開け閉めなどで換気を行っており、気になる臭い等は無かった。また、気になる光や音等もなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室と畳の部屋の設定があり、家具やテレビを持ち込んだり、鉾止めをしても良いように配慮された壁面の木材を利用して、それぞれに特徴ある居室づくりをしている。各居室には洗濯物が干せるように工夫された用具が取り付けられており、できることは自分で行うことにも配慮された環境になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。